

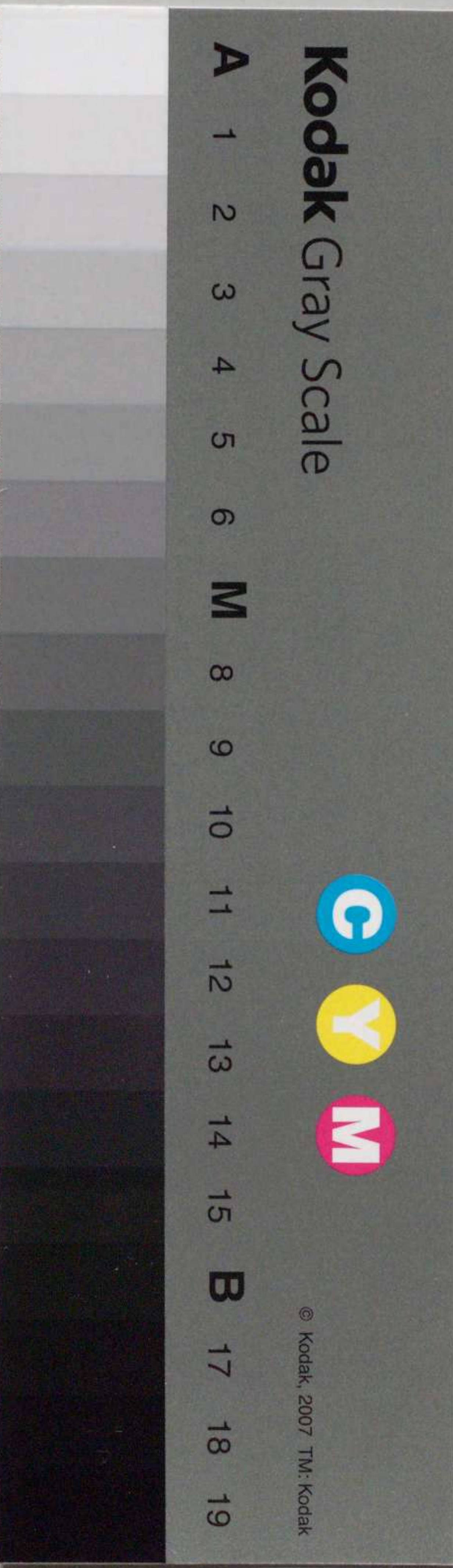
古今要覽稿 目錄

内務省圖書
 第...號
 書部...類
 氏...
 全一七八冊

和書門
 特別二七九七號類
 第六十五番函架冊
 一七九

内閣文庫	
番號	和 27797
冊數	179 (179)
函號	特 65 1

目錄共百七十九冊



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



顧弘賢著

古今要覽稿 目錄

我自刊我書

古書保存書屋

議

三墳五典八索九邱不限古今與中外記錄撰
集草紙物語不問雅俗兼小大探奇闡秘綴斷
拾零欲以久保于世永存于家庶幾乎有補於
昭代文化之萬一焉雖然排字易謬校讐關精
魯魚亥豕請同人訂之日本東京橋區西紺
屋坊九號地我自刊我古書保存書屋主人識

明治十四年購求

古今要覽稿目錄

神祇部

- 第一 神代系圖
- 第二 神代系譜上
- 第三 神代系譜中
- 第四 神代系譜下
- 第五 神社(附、殿、宮、祠、神籬、社)
- 第六 名神
- 第七 大社(附、中社)
- 姓氏部
- 第一 避諱(爲字不成、避諱不及曾高、西土)
- 避諱
- 第二 へ判(附、草名、花押、押字)
- 第三 草名書式、草名撰字、草名結構、草名具名、草名帶印、草名吉凶、女子草名
- 左
- 文章名、草名連辭、草名刻木
- 第四 あさな(字)號(附、別號)



神祇部 姓氏部 曆占部 歳時部

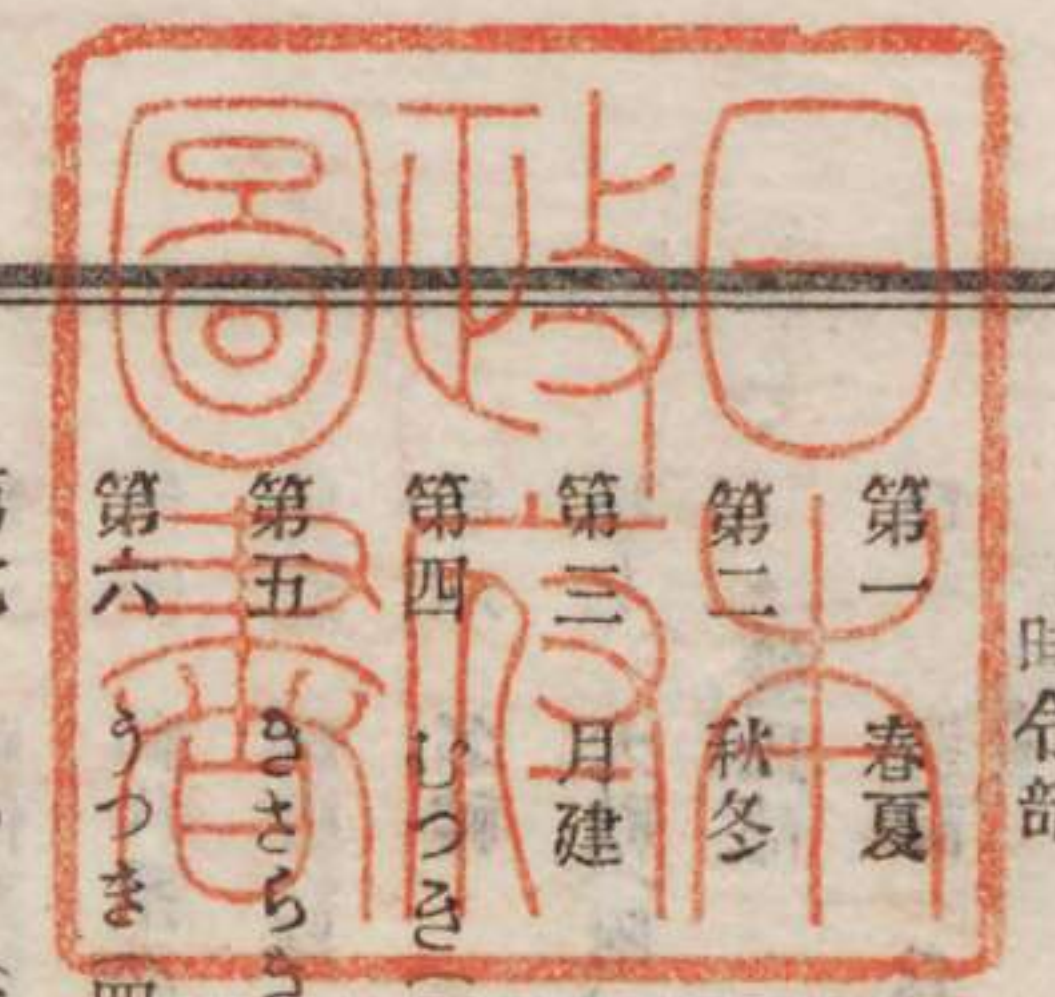
第五 新撰姓氏錄(上之末)

- 第六 新撰姓氏錄(中之本)
- 第七 新撰姓氏錄(中之末)
- 第八 新撰姓氏錄(下之本)
- 第九 新撰姓氏錄(下之末)
- 第十 新撰姓氏錄(下之末)
- 第十一 名和歌
- 第十二 名和歌
- 第十三 名和歌
- 地理部
- 第一 た(田) はた はたけ また(段) まち
- (町) 志ろ(代)
- 曆占部
- 第十 曆占部
- 第十一 曆占部
- 第十二 曆占部
- 歳時部
- 第十二 歳時部
- 第十三 歳時部

- 第二 嘉定
- 第三 八朔
- 第四、五 八月十五夜 九月十三夜
- 第六 玄猪 (本名、亥子餅、一名、殿重げんせう)

時令部

- 第一 春夏
- 第二 秋冬
- 第三 月建
- 第四 正月
- 第五 ささら (二月) やよひ (三月)
- 第六 うつま (四月)
- 第七 さつき (五月)
- 第八 みなつき (六月)
- 第九 ふつき (七月)
- 第十 はつき (八月)
- 第十一 なかつき (九月)



- 第十二 かみなつき (十月)
- 第十三 えもつき (十一月)
- 第十四 まはす (十二月)
- 第十五 のちの月 (閏月)
- 第十六 閏月詩賦并詩歌
- 第十七 那 (雛)
- 第十八 那
- 第十九 節分
- 第二十 す、はらひ (煤拂)
- 第二十一 四時 (附、四季、四選)
- 第二十二 若菜
- 第二十三 うつえ (御杖、初卯の杖)
- 第二十四 門松 ぞめ繩
- 第二十五 薬玉
- 第二十六 軒のあやめ 菅菖蒲 (附、かつみふく)
- 第二十七 あやめのかつら
- 第二十八 あやめのこし (菖蒲興)

第廿九 ちまき

第三十 七夕詩

第卅一 七夕倭歌 (二)

第卅二 七夕和歌

第卅三 さくのみせ綿

第卅四 七遊 (七物)

第卅五 七日 (なぬかの夜、なぬかのよひ、なぬかひ、秋のなぬか、秋のはしめのなぬか)

星合の空星合のかけ 星合の演 天つ星合

第卅六 七夕祭

第卅七 七夕正誤

第卅八 (七夕故事) 玉はし 打はし ふみ

きのはし 棚はし 鶺鴒のはし (鶺鴒のより羽)

のはし、鶺鴒の雲井のはし、鶺鴒の行合のはし

もみちのはし 浮はし 天のさよはし 行合のはし

第卅九 九月六日爲乞巧例

第四十 七夕和歌

第四十一 七夕詩賦

第四十二 若菜和歌

器財部

第一 (弓一) 弓 天のかこゆみ 天のし弓

第二 (弓二) 梓弓 楓弓 檀弓 柘弓 丸木弓

第三 (弓三) ふせたけ弓 外竹弓 かまほこ

十萬弓 腹眞弓

第四 (弓四) ま、色 眞卷弓

第五 (弓五) 重藤弓 本重藤弓 二所重藤

三所重藤

第六 (やなくひ上) やなくひ 胡縁篋 (附矢數)

第七 (やなくひ中) 矢くはり 矢たはね

第八 (やなくひ下) かけ緒 (こしと)

第九 えひら 笛 つくしえひら つのえひら

- 第十 っほやなくひ 壺胡籙
- 第十一 (矢五) ひきめ
- 第十二 一手四目 四目
- 第十三 そや
- 第十四 (矢六) かりまた 狩俣之矢
- 第十五 (矢一) や 天羽々矢 眞鹿見矢 去
こや 獵箭 野矢
- 第十六 (矢二) かふらや
- 第十七 つるまき
- 第十八 (ゆき上) ゆき 鞠
- 第十九 (ゆき中) ひめゆき (姫鞠)
- 第二十 かちゆき(歩鞠)
- 第二十一(上)さかつら箒 熊箒
- 第二十二(下)平やなくひ 蒔繪平やなくひ
螺鈿平やなくひ 木地螺鈿平やなくひ 木
地蒔繪平やなくひ 沃懸地平屋なくひ 平
胡籙の矢さしやう

- 第廿二 (武具) ゆみ袋
- 第廿三 うゆほ
- 第廿四 たまは、き(玉帶)
- 第廿五 かけ緒 こしを うけ緒 上帯 矢
ほろ
- 第廿六 むかはき(行騰)
- 第廿七 つる袋
- 第廿八 矢くはり
- 第廿九 かうかい(櫛鬘版)
- 第三十 度(ものさし) (附、都加、阿多、比呂、
丈尺分寸等の名義) 古尺大小量 常用の鐵
尺 古昔の度よ差はさる事
- 第卅一(上) 度(ものさし) 令前常用尺 令
常用尺(小尺) 令大尺(度地尺) 和銅碩尺 養
老碩尺 延喜造位記鐵尺 永承三種尺 鯨
尺 甲冑用鷹さし 法隆寺象牙尺 惠日大
寺瑠璃尺

- 第卅一(下) 法隆寺象牙尺 鯨尺 長尺 大安
寺周尺 法壽菴周尺 御府周尺 楨尾尺生
駒寺律衣尺 高野山尺 叡山尺
- 第卅二 量 令以前量 令大升、小升 和銅大
升 延喜式大升 長保新製 延久新製 天
正新製 慶長新制 江戸升 寛文新制 甲
州升 法隆寺木升 興福寺南圓堂油升 同
寺布施升 同寺東金堂升 藥師寺金伏升
長合升 武佐升 彦根升 太陽菴升 榛原
升 日野升 稻荷升 松尾升 鼠喰升 東
寺升 民部省厨升 宣字升
- 第卅三 量 令大升、小升 延喜式大升 長保
新製 延久新製 天正十四年前升 京番 新
藥師寺升 春日目代納升 伊勢大神宮大升
同供用升并小升 同於麻加利升并小升 山
門升 三井寺升、大澤升 般若寺マカリマチ
升 南氏升 春日社神供升 藥師寺段錢升

- 伊勢神領升 宮中御納升 家用升 八合
升 正傳寺升 長講升 銅升 十三合升
久我升 天正十合升
- 第卅四 權(はかり) 權の形 今所用秤
- 第卅五 令大兩、小兩 延喜式權衡 延久宣旨
秤 京目 天平
- 第卅六 馬具(上) 鞍(一) 上古鞍制作公家所用
附鞍名目
- 第卅七 馬具(中) 鞍(二) 中古鞍制作武家所用
- 第卅八 馬具(下、上) 鞍(三) 近世鞍制作、大坪流
伊勢氏、宮氏、沼田氏、千秋氏、辻氏
- 第卅九(下) 移鞍 平文移鞍
- 第卅九 氷干鞍
- 第四十 馬具鞍(七) 雜鞍(附、結鞍、賤の鞍、荷
鞍)
- 第四十一 和鞍 有筋螺鈿鞍(綴螺鈿)
- 第四十二 馬具鞍(九) 鏡鞍(御幸鞍) 銀鞍白鞍

白覆輪

第四十三 木地螺鋼鞍 白鞍 金具摺鞍
 第四十四 黒漆鞍 (黒鞍) 無海鞍 布袋鞍
 第四十五(馬具十三) 金覆輪鞍(黄覆輪鞍) 蒔繪
 金覆輪鞍 金覆輪白鞍 銀覆輪鞍 白覆輪
 鞍 蒔繪白覆輪鞍 梨地白覆輪鞍
 第四十六(馬具鞍十二) 水精地鞍 龜甲地鞍梨
 地鞍
 第四十七 唐鞍
 第四十八(馬具鑣一) 鑣 白磨銜 銀銜 ぬり
 銜 あらひ銜 散物銜
 第四十九(馬具鑣二) 蒺藜銜 うはらくつこ
 唐鞍銜 唐鞍銜異形 鏡銜
 第五十(馬具鑣三) 杏葉銜 木葉銜
 第五十一(馬具鑣四) く、み銜(ふくみ銜)
 第五十二(馬具鑣五) 出雲轡 蜻蛉文銜
 第五十三(馬具鑣一) 鑣 壹鑣

第五十四(馬具鑣二) 唐鑣 舌長鑣 半舌鑣木
 鑣 五六掛鑣 鏡鑣

第五十五(馬具鑣二) 武藏鑣木五六

第五十六(馬具) 籠頭(鼻革) 鎌籠頭 床籠頭柏
 子

第五十七(馬具) 韃(下鞍切付) 唐切付
 第五十八(馬具) 鞍吧 打鞍覆 織物鞍覆 透
 鞍覆 虎皮鞍覆 豹皮鞍覆 鹿皮鞍覆 熊
 皮鞍覆 毛氈鞍覆 段子鞍覆 金襴鞍覆
 とろめん鞍覆 赤漆あめし革鞍覆

第五十九(馬具) 馬甲
 第六十(馬具) 鞞 唐鞍鞞 楚鞞 連着鞞 衛
 鞞 織鞞 坂束鞞 染鞞 上総鞞 厚總
 鞞 海老鞞

第六十一(馬具) のり沓
 第六十二(馬具) 武家所用手綱 紫筋白
 手綱 赤根染手綱 紫染引手際手綱 梅志

第六十九(鷹犬具) あしき (あしかは、小あ
 しき) 附、綴あし緒、亂あしと、山あしと、
 引入の足緒、續脚緒、長脚緒、媒緒)

第七十(鷹犬具) 四) 架 寸法 陣架 二架
 陣架 かり架 居架 持架 式架 水架
 かけひの架 ひほこ ひふせのはこ たる
 みのはこ ゑもほこ 座敷架 鞞掛架 さ
 し架 王架 草架(東國架) 外架 野架 壽命
 架 臺架 神前架 はなちとりの架 結架
 はや入の架(こつちの架) 縁架 藤縁架 二
 木架 三木架 かくれ家の架 つ、みの架
 まきはこ 小鷹のはこ 朝夕架 相樂架
 長相架 四季架 架ノ陰陽 壘架 燈臺架
 第七十一(鷹具) 餌袋(生袋) 餌籠 口餌筒 餌
 合子(餌五器) 餌筒 餌俵 水筒
 第七十二(鷹犬具) ほこたれ 鷹なぶり(ひち)
 第七十三(鷹具七) 鈴(鈴押、す、こ、鈴船) 白塗

ほり手綱 柿染手綱 引両手綱 褐色手綱
 褐布一寸班手綱 細筋褐布手綱 豹文手綱
 引手際豹文手綱 とり染手綱 淺黄手綱

第六十三(馬具) 杏葉
 第六十四(馬具) 轡 かれひつけ ハ子 志ほ
 て 鏡志ほて

第六十五(馬具) 鞭 朱塗鞭 蒔繪鞭 藤卷鞭
 藤鞭 紫竹鞭 竹根鞭 犬追物鞭 熊柳鞭
 くみの木鞭 梅の木鞭

第六十六(馬具) 鏡鞞 力革 今所用力革 貫
 鞞 由木堀

第六十七(馬具) 腹帶(小腹帶) 表腹帶 二重腹
 帶 由木堀

第六十八(上) あかとり
 第六十八(中) 鷹具 大緒(もとほし、小槌のを)
 第六十八(下) 鷹具 經緒(せきと、尾繩) 留(をき
 繩 經緒筒(へまさ、豹筒)

鈴 黄金鈴(真金のす)、鈴袋 鷹裝束(鈴板、
 鼠緒)木式裝束 平裝束 切草裝束(切裝束、
 燕裝束、半裝束、和戎傳、裝束、小革裝束、小裝
 束)白の裝束 ふくま裝束(小裝束)亂裝束(系
 裝束)貫木裝束 子飼裝束(小皮裝束)錦裝
 束(紅葉裝束)あこめ裝束 野小鳥裝束 と
 つか裝束(とりかひ裝束)れん雀裝束 かし
 鳥裝束 みの毛裝束 小鳥裝束 はり皮裝
 束(さり裝束) みどり裝束 せいてう裝束
 えほしふま裝束 うちつの裝束 山鳥裝
 束 志つけ裝束 女皮裝束 くれかけ裝束
 かしか裝束 つら裝束(綴裝束)はしつの
 裝束 ひやうもんの裝束(く、し裝束)赤草
 裝束 白草裝束 紫草裝束 黒草裝束 金
 襦裝束 綿裝束 緋裝束 緋裝束 帛子裝
 束 打掛裝束 三毛裝束(三宅裝束)藍草裝
 束 紫御免草裝束 砥草裝束 鷹取裝束

第七十四鷹具(八)狩杖(鷹飼杖、犬飼杖、勢子杖)
 ひねり 餌刀 餌箸 とろ板 鷹楊枝
 第七十五鷹具 ふせきぬ さいはらひ 尾袋
 からまくら ふせこ
 第七十六鷹具(十)犬の鈴 やりなは さは
 し きりな 首たま くさり うちかひ袋
 第七十七(樂器一)やまと琴
 第七十八(樂器二)さうのこと
 第七十九(樂器)きんのこと(上)
 第八十(樂器四)きんのこと(下)
 第八十一 さやまき け、らさやまき くる
 さやまき 白さやまき ぬひさやまき 木
 さやまき
 第八十二 なまなた
 第八十三 筑紫長刀
 第八十四(甲冑一)ひととし(紅梅とし)
 第八十五(甲冑二)小さくらをとし

第八十六(甲冑三)ふしなへめをとし
 第八十七(甲冑四)まなかはをとし
 第八十八(甲冑五)うのはなととし あらひ草
 ととし
 第八十九(甲冑六)くれなぬとをとし
 くれなぬとと黒系のよろひ むらさきす
 こととし はたすこととし
 第九十 はた
 第九十一 のほり旗(縫くるみ、まねき)旗差
 第九十二 旗紋 旗竿(手付竿)旗袋
 第九十三 錦旗 赤旗 白旗(黒旗、青旗)
 第九十四 あけはり(帷、幕)旗
 第九十五(武具)たて(楯)かいたて(步楯)ひ志
 きたて(竹束)
 第九十六 竹如意(大龍)
 第九十七 寶鐸(銅鐸、阿育王塔鐸)
 第九十八 鳩杖

第九十九 いはひべ(嚴倉、齋倉、忌倉)
 第百 かへしろのちやう かへしろ
 第百一(上)燧袋上 燧袋 制作 作法
 第百一(下)燧袋下 腰刀よつくる 指柯燧袋の
 寸法 うさよ袋 すり袋 ひうちけ
 第百二 槍扇(杉横目扇、冬扇)
 第百三 扇詩賦並和歌
 第百四 ほこ(矛)
 第百五 やり
 第百六(征戰具)はらのふえ こそ(大角)くれ
 のふえ 竹ほら(小角)
 第百七 矢立の硯 小硯匣
 第百八 床几 あくら(胡床、床子)
 第百九 貝(螺、海螺、寶螺、法螺)
 第百十 團扇(軍配、團扇)軍陣扇
 第百十一 あふき
 第百十二 かさ(笠)蘭笠(綾蘭笠)菅笠 編笠

杉笠 檜笠 壺笠 市女笠 平笠 竹笠
蓮葉笠

第百十三 からかさ おほかさ(大織屏織)菅
蓋(菅大笠)朱柄傘 墨傘 雨傘

第百十四 興(四方興)長柄(駕柄)輿(輿功)板輿(駕)
駕(打揚腰網代)打揚腰網代引戸 腰黒板打
揚腰二重板引戸 腰板引戸(引戸)

第百十五 籠輿(かこ)あみいた(あんた)あ
た)

第百十六 たんさく ひねりふみ(短箱)

第百十七 けうさん(爽竿)

第百十八(文書具) つくろ(机案)

第百十九(文書具) すみ(墨)

第百二十(文書具) 藤代墨

第百廿一 ふくるま(書車)文車

第百廿二(文具) かみ 紙屋紙 宿紙

第百廿三 はこ(はうご)はく(反故)

第百廿四 くつ(鞆)

第百廿五 つらぬき 熊皮貫 虎皮貫 豹皮貫
牛皮貫 獺猫貫 羚羊貫

○草、木部

第一(松一) 松 ころ松 あか松 まろ松

第二(松二) 五葉松 三葉松 七葉松

第三(松三) かしま松 鮎松 連葉松 連理松
まもふり松 まらが松

第四(松四) され松 ねむり松 ふじ松 根
あがり松

第五(松五) 松和歌一

第六(松六) 松和歌二

第七(松七) 松和歌三

第八(松八) 松和歌四

第九(上)松九) 松和歌五

第九(下)櫻一) さくら 木花 はな わすれ花
かへり花

第十(櫻二) 兒櫻 殿櫻 芝山櫻(鷲尾)碧玉

逆手櫻 帆立櫻 帆掛櫻(旗櫻)

第十二(櫻三) 駒繫櫻 山櫻 小櫻 白櫻

第十二(櫻四) 雪山櫻(雪櫻) 文字櫻 薄墨櫻
桐谷(又名八重)重又名車返 江戸櫻

法輪寺 江戸法輪寺(又名法善寺)泰山府君
樓間櫻 海棠櫻

第十三(櫻五) 千本櫻 九重櫻 樺櫻(黃櫻)

樺櫻(一名白樺) 爪紅櫻

第十四(櫻六) 楊貴妃櫻 有明櫻 手毬櫻

第十五(櫻七) 昭君櫻 香櫻 緋櫻 薩摩緋櫻
寒緋櫻(又元日櫻) 虎尾 泰山府君

第十六(櫻八) 眞櫻 外山櫻 曉櫻(明星櫻) 普賢象
霍麥櫻 鳳來寺櫻 盤窠櫻 名鳥櫻

第十七(櫻九) 大膳櫻 伊勢櫻 奈良八重櫻
通櫻 不斷櫻(一名長春櫻) 三度櫻(節會櫻)

南殿櫻

第十八(上)櫻十) 谷越櫻 辨殿櫻 赤芽櫻
墨染櫻 雲珠櫻 備後三郎題詩櫻 栖霞櫻

拾櫻 右衛門櫻 白砂櫻 醍醐櫻 庭櫻 朱櫻
犬櫻

第十八(下)櫻 彼岸櫻(古名犬櫻) 系櫻 熊谷櫻
婆櫻

第十九(櫻十四) 八重垣 牡丹櫻 同變種
須磨櫻 同變種 長崎櫻 同變種 澁谷金

玉櫻 金玉櫻 常盤櫻 十月櫻(脇坂中務
大輔庭中) 又 エトロフ櫻

第二十(櫻十五) (未勘部) 壽春櫻 荏櫻 白
玉櫻 觀音櫻 羅櫻 平頭櫻 鳳尾櫻 芭

蕉堂 醉胭脂 白山櫻 大船櫻 松川櫻
玉堂櫻 時雨櫻 玉盤櫻 芍藥櫻 九品櫻

第廿一(櫻十六) 櫻和歌一
第廿二(櫻十七) 櫻和歌二

第廿三(櫻十八) 櫻和歌三
 第廿四(櫻十九) 櫻和歌四
 第廿五(櫻二十) 櫻和歌五
 第廿六(梅一) 梅
 第廿七(梅二上) のむめ(野梅) 又一種 又八重 又一種 加賀白梅 蕪雪 殘月梅 はやさき(大雪梅多咲) 小梅
 第廿七(梅四下) 照水梅 綠萼梅 白妙 山人 風流梅 殘雪梅(一名衣更着)
 第廿八(梅五) 臥龍梅 青龍梅 ふゆ梅(附とこ梅) 梅品所載常梅 すこ梅 えいさん白金梅(井出の里)
 第廿九(梅六) 紅梅
 第三十(梅七) 八朔梅 又一種 淺香山 冬至梅 寒紅梅 寒陽袋
 第卅一 蘇芳紅梅 朱梅 緋梅 朝日梅 夏衣梅 玉光梅

第卅二 梅和歌上
 第卅三 梅和歌中
 第卅四 梅和歌下
 第卅五(椿一) つはき(海石榴)
 第卅六(椿二) 椿和歌
 第卅七(椿圖一) 山つはき(同實) 金山 八木椿 乙女 ゆわかり まかみ さらさ わひすけ 緋車 星車 老松 狸々 朝かきり ものかは からあや から錦 小櫻 ちら玉 ひのまつはき 黄つはき
 第卅七(下) 椿圖二 車さか きりかう 無官源 南京 山の井 京椿 せつけい 越前實盛 さらしな 三段花 かんまく 雪の下 飛鳥川 赤坂 ちりめん 信濃 せつかう 砥くり さくら木 さんいさう まの葉 まらひと 伊吹 妹春 ちり 常盤 菊とち 織部 かすみか關 大和牡丹

りうち 淡路島 あふひ なつかい ほし刑部 一二 白こしみの 北斗 からや腰みの むらさき きりん さらさ 南蠻ほし べに絞 大りん 松風まほり かま車 異國
 第卅八(上) 椿圖三 いさはや 蜀江錦 狸々水引 よりまて 龍田河 きりつほ 小塩 島桔梗 さりかやゆ 酒天童子 みの島 赤檜 初時雨 はつれ雪 關守 砂金山 の雪 もつくはひ 水車 海棠ゆりたて ちむ花 たつたん 一夜切 よつやさんかい 九愛 數椿 まゆか 平吉 十五夜 とた菊 まら菊 はつし白 本因坊 しら玉 さ・ん花 高砂 からさか 泰山府君 人磨 しほかま まち とひ入大うそ色 まつしま 松 もまぢ あいみ河 無綾まほり 布土さんかい

第卅八(下) 椿圖四 赤紅 八代 金鶏 隅田河 鈴か山 鹿兒島 星牡丹 獅々頭 酒中花 蝦夷錦 唐錦 翁絞 藻衣 丹頂 春の臺 松か枝 挑花鳥 玉垂 鷲の山 關守 小蝶陀助 卜伴 鳥の子 草紙洗 花見車 上妻 撒釜 高倉 沖の波 玉坂 初瀬山 羽衣 木珍花 そこ紅 薄色面両玉 川 數寄屋 妙見寺 白桔梗椿 雪月花玉 手箱 下つま 白瀧 都鳥 大れんげ 白ちん花
 第卅九(紅葉一、上) 紅葉 和歌一
 第四十(紅葉一、中) 和歌二
 第四十一(紅葉一、下) 和歌三 釋名
 第四十二(紅葉二) かへて
 第四十三(紅葉三) 楓
 第四十四(紅葉四) かつら 唐楓
 第四十五(紅葉五) 梨 梅 櫻 柿 ねつもち

草木

第四十六(紅葉六) はじ うるし ぬるで

第四十七(紅葉七) はくそ なら かしは

くぬき

第四十八(紅葉八) くす さねかつら ちかや

つた(蔦、絡石、地錦)

第四十九(紅葉九) まゆみ(檀、桃葉、衛矛)ふしき

(衛矛)さへたち つりはな(紅葉木)まご

きかつら

第五十(紅葉十)槻紅葉 楸 烏臼木 志ら木

第五十一(紅葉十一)歌仙一)かへてのもみち

小倉山 高雄 八染 笠取山 赤地錦 た

むけ山 名月 志めの内 とまわ

第五十二(紅葉十二)歌仙二)切錦 宵葉 か

きり 紅の波 紋錦 さほ山 袖の内 鹿

紅葉 業平

第五十三(紅葉十三)歌仙三)かよひ 朝露

奥州獨搖 志からみ 志くれ山 九重 武

蕨野 嵐山 立田

第五十四(紅葉十四)歌仙四)侘人 待風 白

浪 深山楓 通天 飛鳥川 村雲 唐錦

うらべに

第五十五(紅葉十五)後歌仙)千染 もみちか

さね 關守 ます紫 遠近人 小夜時雨

ひとしほ 松かえ 神無月

第五十六(紅葉十六)後歌仙二)とやま 隣家

敷島 花の宴 古郷 初もみち 夕暮 紋

盡 夕時雨

第五十七(紅葉十七)後歌仙三)戀金 水かま

み れくしも 志れかたみ 志くれそめ

千里 駒駐 綾蘭笠 しのぶ

第五十八(紅葉十八)後歌仙四)名取川 秋風

内ゆかし 幾染 うつみの羽 小雨の錦

七夕 手染糸 鹿毛織錦

第五十九(紅葉十九)歌仙追加)唐楓 漣波

初花 道しるへ 御所櫻 葛城 淺芽 じ

か紫 唐織

第六十(紅葉二十)歌仙追加)待宵 夕霧 釣

錦 吳服 柞 扇子流 麓寺 十寸鏡 眞

間

第六十一(紅葉二十一)歌仙追加)七瀬川 朽

葉 品川 黄八丈 清瀧 葛の葉 水滸

余瀨 松影 軒端

第六十二 あけひかつら(通草)ひさき(楸)

第六十三 みつのかしは

第六十四 蠟梅

第六十五 山も(山楊桃、楊梅)

第六十六 くみ(もろなり、胡顔子)

第六十七 いたちはし(かみ(かりのみ、山菜莢)

第六十八 はくか(かみいさくら、かは、樺)

第六十九 きはら(あさかほ、むくけ、木蓮)

第七十 そも(李)

第七十一 いよかつら(藍漆)くるへさな

第七十二 志たつき(志とめうり、仙沼子、合子艸)

第七十三 さんく(山茶花)

第七十四(欠)

第七十五 くだよ

第七十六 むべ(うべ、郁子、莫實、漢名野木瓜、

とき(あけび)

第七十七 とかたまの木

第七十八 芝(れんし)

第七十九 水仙

第八十(油料)へみのあふら(閉美閉彌)かやの

あふら

第八十一(花信風)はりの木(橙)はし(み(榛)

第八十二 もけ

第八十三 茗(茶)

第八十四 ちんちやうけ(瑞香、睡香)

第八十五 やまあら(こふしはし(かみ、こ

草木

古今要覽 種目録
草木

ふし辛亥

- 第八十六 ぞめしほ(山禁)あせひ(馬酔木)小つゝ(茵芋)
- 第八十七 からも(あんす杏)
- 第八十八 せら(櫻桃)
- 第八十九 わうはい(迎春花)いたちくさ(連翹)
- 第九十 竹一竹
- 第九十一 竹二 たらふ竹 ほていちく 寒竹 なりひらたけ 鳳尾竹 金明竹 方竹
- 第九十二 竹三 黄金竹 金明竹 高麗竹
- 第九十三 竹四 篇遅久(沙古丹竹)
- 第九十四 竹五 布袋竹(琉球竹)佛面竹 龜文竹 鶴味竹 高節竹
- 第九十五 竹六 ふたまた竹 左右枝竹 穂竹 羅漢杖竹
- 第九十六 竹七 臺明竹
- 第九十七 竹八 南京竹(慈竹)

第九十八(竹九) 一種大名竹 乃一種大名竹

- 葉平竹 小町竹
- 第九十九(竹十) 四方竹(四角竹)實竹
- 第百竹十一 玳瑁竹 漢竹 一種真竹 翁竹
- 第百一 むらさき竹(胡麻竹)寒竹 ころ竹 玳瑁竹
- 第百二 疎節竹 尺八竹 志ほ竹 いはら竹 篋筭竹 沈竹
- 第百三 川竹 (なよ竹)女竹(まぬ)まの(たかしの)たほしの(寒山竹)
- 第百四(竹十五) 吳竹 たほ竹 孟宗竹(わけ竹)かはしろ竹 ま竹
- 第百五(竹十六) の(矢たけ) 一種失竹 通絲竹 鳳皇竹 村松竹
- 第百六(竹十七) すゝ 簾竹 小竹魚 熊笹 ちまきさゝ 五枚笹
- 第百七(竹十八) さゝ 龍鬚竹 兒笹

第百八竹(十九) 和歌

- 第百九 詩一
- 第百十(竹廿一) 詩二
- はな(山蘭)
- 第百十二 蘭二 はくり(はくり)春蘭(たほはくり) 弱脚蘭(春風蘭) 蕙蘭(四方蘭) 小蘭 白莖(素心蘭)
- 第百十三 蘭三 雄蘭(駿河蘭) 建蘭(雌蘭) 房州蘭(縞蘭) 金稜隈蘭(古今輪際) 玉花蘭(爪白)
- 第百十四 蘭四 紫幹蘭(青葉蘭) 博蘭(豆蘭) 寒蘭(冬蘭) 紅寒蘭 竹柏蘭
- 第百十五(蘭五) 和歌
- 第百十六 とりのあしくさ
- 第百十七 升(麻二) とりのぬくさ わしくさ 鶏骨升麻(あはほ) みつふて 鬼臉升麻(一種大葉升麻) 日光升麻(鬼臉升麻) 一種大葉升

麻 蓮花升麻

- 第百十八 のせり(はまあかな) 苳胡
- 第百十九 なき
- 第二十 ちくのみ(地黄)
- 第百廿一 われもかう
- 第百廿二 すまら草(天門冬)
- 第百廿三 うと(つちたち) 獨活
- 第百廿四 大葉獨活(文州獨活) まうとうと(志かな) 茂州獨活(うともと) 高麗獨活(文州獨活) さかうと(増上寺白芷)
- 第百廿五 さとひめ
- 第百廿六 ゑく(えこ) せり
- 第百廿七 ねほろみ(山名み) あまな(さよ) ねり(なるこ) ゆり(わせい) ところ(黄精)
- 第百廿八 かたかこ
- 第百廿九 あまき(甘草)
- 第百三十 ゑみくさ(あまな) からす(すり) すゝ

古今要覽 種目録 草木

九 一 哉 目 録 哉 書 目

古今要略 草木

あり、あまところ、女萎

第三百三十一 あふひくさ(かもあふひ 雙葉細辛)ふたまかみ(かんあふひ、杜若)

第三百三十二 和歌(あふひ)

第三百三十三 なてしこ(とこなつ 粟麥、石竹)

第三百三十四 和歌(なてしこ)

第三百三十五 こくさ

第三百三十六 かのよけくさ(くまのい、人參)

第三百三十七 釋名(かのにけくさ)

第三百三十八 和歌(くす)

第三百三十九 すくなひこたのくすね(いはとくさ、石斛)もつこく、むきらん(まめらん、

麥斛)はくこくらん(おさらん、雀神斛)

第四百四十二 あのかさ

第四百四十一 みらのねくさ(みやまぬな、細辛)

第四百四十二 をけら

第四百四十三 やせすけ(麥門冬)

第四百四十四 をとよし(天麻)

第四百四十五 あさかは(朝鏡)附ひるかほ(舜

第四百四十六 あさかほ(牽牛子)

第四百四十七 和歌(あさかほ)

第四百四十八 あさかほ(とかとくさ、桔梗)

第四百四十九 いはくみ(いはば 翁柏)まんねんさう 一種萬年草(千年松)

第四百五十 ひかけかつら(狐のたすき、蕤)

第四百五十一 あやめくさ(そらふ、昌蒲)

第四百五十二 和歌(あやめくさ)

第四百五十三 和歌(あやめくさ)

第四百五十四 かつみ(花かつみ)

第四百五十五 萩

第四百五十六 をはな(とまのはな、萱萩)

第四百五十七 和歌(萩上)

第四百五十八 和歌(萩中)

第四百五十九 和歌(萩下)

第六十 和歌(女郎花)

第六十一 和歌(尾花上)

第六十二 和歌(尾花下)

第六十三 をみなへし(ちめくさ、敗醬)

第六十四(菊三)和歌(菊)

第六十五(まらき)四)和歌二

第六十六 つしたま(すくご、慈茨子)

第六十八 ひらのよんしん(ぼたんよんしん、

九、衰州防風)ひきよもき(くさやつて、菴藷)

第六十九 なまめ(おもたか)

第七十 ひや

第七十一 油料

第七十二 胡麻 つはき くるみ 蔓椒

第七十三 からかしは(草麻)くすのき(樟)

第七十四 あさ(大麻)

第七十五 たふ(たも、たま)くろもし しろ

もし

第七十六 たうはせ(烏臼)しらき(こくごの

くじし)

第七十七 な(松葉)

第七十八 あさ

第七十九(水草)ひし(菱)

第八十 みつふき

第八十一 ひるむしろ(ひるも、磨舌、眼子菜)

第八十二 蓮圖

第八十三 ばちす(ばす、蓮)

第八十四 雙頭蓮 つまへよ くらへよ

へりとり(錦邊蓮)每葉蓮 芍藥蓮(湘妃蓮)

第八十五 も(藻)

第八十六 うさくさ(萍、蘋)

第八十七 ひつしくさ(睡蓮)かほね(萍蓬

古今要略 草木 十一 限自刊 茂野屋

雜藝部

- 第一 ぐ(園基)
 - 第二 田樂
 - 第三 くさあわせ(園草)
 - 第四 猿樂
 - 第五(止)あして書 みつて うたゑ
- 災異部
- 第一 火雨
- 禽獸部
- 第一 うくひす
 - 第二 鶯和歌一
 - 第三 鶯和歌二
 - 第四 ほと、きす
 - 第五 杜鵑和歌一
 - 第六 杜鵑和歌二
 - 第七 杜鵑和歌三
 - 第八 杜鵑和歌四

第九 杜鵑和歌五

- 第十 杜鵑詩賦
- 第十一 ひはり(鸚)
- 第十二 呼子鳥(かつこう)
- 第十三 呼子鳥和歌(かほとり)
- 第十四 鷹 身牀
- 第十五(鷹部二)羽
- 第十六(鷹二)毛
- 第十七(馬一)馬
- 第十八(馬二)骨度 骨名
- 第十九(馬三)旋毛(つじ)
- 第二十(馬四)齒
- 第二一(馬五)牧馬印
- 第二二(馬八)くろけ馬 くろみどり馬
- 第二三(馬九)くろけ馬 くろくわけ馬 あか
- くわけ馬 まらくりけ馬
- 第二四(馬十)かけ馬 まらかけ馬 あかけ馬

くろかけ馬

- 第廿五(馬十一)あしけ馬(みたらどの馬)まら
- あしけ馬 尾花あしけ馬
- 第廿六(馬十二)ねつみ毛馬 つき毛馬 あか
- つきけ馬 さみつさけ馬 とろつきけ馬(く
- ろつきけ馬)またらつき毛馬 太白つきけ
- 馬
- 第廿七(馬十三)みゆあをけ馬 あをくろ毛馬
- くろあしけ馬
- 第廿八(馬十四)連錢あしけ馬 とらけ馬
- 第廿九(馬十五)ひはりけの馬 青ひはりけ馬
- あしけひはり毛馬
- 第三十(馬十六)くり毛ひはりけ馬 かけひは
- り毛馬 くろひはり毛馬 つきけひはり毛
- 馬 しろひはり毛馬 赤ひはりけ馬
- 第卅一(馬十七)あかけ馬 あかかけ馬 かう
- しあかけ馬 山とりあかけ馬

第卅二 馬和歌

- 第卅三 (かまか、鹿)しろまか(白鹿)
 - 第卅四 鹿和歌一
 - 第卅五 鹿和歌二
 - 第卅六 ふるもちのぬ(ふた、豕)
 - 第卅七 ひつし(羊)
 - 第卅八 ひくひつし(やき、夏羊)
 - 第卅九 かまし(かもしか(麋羊))
 - 第四十 ゐ(おのし、猪)
 - 第四十一 くま
 - 第四十二(馬類止)駱駝(總論)一封駝(獨峯駝)
 - 野駝(家駝)風脚駝(牛駝豹)兩脚駝
- 菜蔬部
- 第一 こみら(にら、韭)ねほみら(らつきよ、薤)
 - 第二 ういさ(よめかほさ、薺)
 - 第三 すこな(かふな)
 - 第四 なつき

古今要略 龍魚 菜蔬 ○ 龍魚

- 第五 あしなつな
 - 第六 せり(根白芹)
 - 第七 田平子(かはらけな、佛の座、鶏腸草、地まはり)同一種 又一種 又一種
 - 第八 はくへら(はこへ、藜蘆)
 - 第九 母子草(たきやう、ほうこくさ、鼠麴草)
 - 第十 す、しろ(おほね、蘿蔔)
 - 第十一 こほね(こほね、野羅藷)たり大根
 - 第十二 みくなくさ(ねつみのみ、紫耳)
 - 第十三 ぬなは(蓴、蓴菜、卵)
- 蟲介部
- 第一 かめ(龜、靈龜、神龜)
 - 第二 かはかめ(そつほん)
 - 第三 白龜
 - 第四 おかしめ(朱龜、珠かめ、三足龜、能一足龜、納龜)
 - 第五 うみかめ(たはかめ、蠟蟻)

- 第六 瑠璃(文甲)
 - 第七 泰龜(いしかめ、やまかめ)
 - 第八 毛龜(みのかめ、級毛龜、黃龜(地龜))
 - 第九 こかめ(蓋龜)赤龜、丙頭龜、三足龜、六足龜、六眼龜、四目龜、鸚龜、慈龜、旋龜
 - 第十 かはかめ(鼈、すつほん)
 - 第十一 龜詩賦并和歌
 - 第十二 こほろき(蜻蛉)いと、(龍馬)はたとりめ(促織)
 - 第十三 きりくす(蟋蟀)
- 龍魚部
- 第一 かつと(かたいうを、堅魚、鱧)
 - 第二 かしさとほし(鮪、鮪、鱈)
 - 第三 志比(鮪)
 - 第四 からかこ(さとう、かしか、鯛魚)
 - 第五 いしふく(こり、鮫)かんぶり(こり、抱石魚)ちよかぶり(たははせ、鱒泥魚)

- 第六 かしか、かじい、石伏魚
 - 第七 とぼ(とんぼ、かしか、杜父魚)
- 飲食部
- 第一 もちぢ(かちん、釜)
 - 第二 つはひもちぢ(葉形餅)
 - 第三 くさもちひ
 - 第四 まかり
 - 第五 五辛(五葷)
 - 第六(五辛二)葱葱(孔、伎)
 - 第七(五辛三)大蒜(葫、よんよく)
 - 第八(五辛四)關葱
- 政事部
- 第一(武藝)とをつら(十列)
 - 第二 御謠初(松はやし)
 - 第三 若水(立春水)
 - 第四 とり合(鬪鷄)
 - 第五 氷室(氷様)

- 第六大嘗會(御禊) 飴馬
 - 第七 くらへむま(走馬一)
 - 第八 競馬(くらへむま二)
 - 第九 競馬正誤
- 服飾部
- 第一 もみえほうし(葵烏帽子)
 - 第二 立烏帽子
 - 第三 折烏帽子(風折烏帽子)
 - 第四 柳佐比 白丁烏帽子 長烏帽子 細烏帽子
 - 第五 さひえほうし きらめきえほうし ふくろのえほうし むひしえほうし こゆひえほうし 長こゆひえほうし どうしんえほうし ひんえほうし ひらえほうし なけえほうし はしえほうし ひいろえほうし とつはいえほうし
 - 第六 薄塗烏帽子 澁塗烏帽子 なへたるえ

古今要略 飲食 政事 服飾 十二

- 第七 ほうし うやえほうし をさえほうし
- 第七 さむらひえほうし(侍鳥帽子、なつとうえほし)ひたいえほうし(額鳥帽子)
- 第八 ひれ(領巾、肩巾)
- 第九 えほうし
- 第十 平禮
- 第十一 蒸鳥帽子
- 第十二 衣文
- 第十三 水干
- 第十四 ひたくれ(鍔直垂)
- 第十五 十徳 紗十徳
- 第十六 かたきぬ(上下)かちんかたきぬはかき 繼上下

人事部

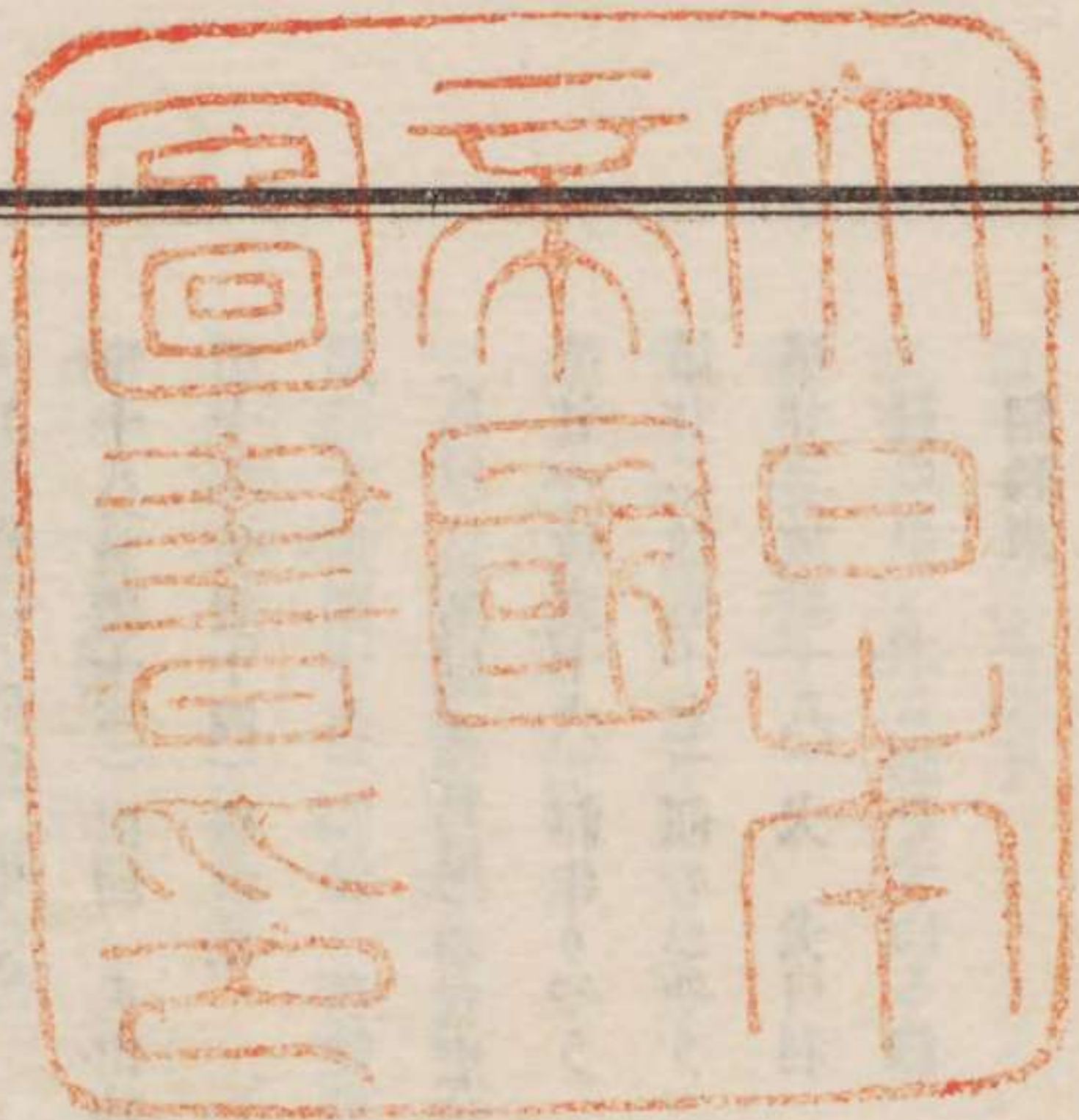
- 第一 少人騎馬
- 第二 御宮參
- 第三 御元服

- 第四 御行始 姫君御幸始
- 第五 たくみ
- 第六 麻疹
- 第七(放鷹一)放鷹
- 第八(放鷹二)巢鷹狩 羅鷹狩 大鷹狩 小鷹狩 鷄狩 鳴鳥狩 聞居鳥(聞ふせ鳥)追鳥 狩 朝と狩 夕と狩 見すへどり 日なみのかり 待鷹 賢鷹
- 第九(放鷹三)鷹詞
- 第十(放鷹四)野行幸
- 第十一(放鷹五)狩使 賜遊獵地 禁私放鷹
- 第十二 放鷹裝束 野行幸御裝束(諸臣裝束)
- 第十三(放鷹七)療治一
- 第十四(放鷹八)療治二
- 第十五(放鷹九)療治三
- 第十六(放鷹)療治(灸)

- 第十七(放鷹十二)鳥附柴 兎鳥附柴 鳥掛 小鳥かけ 鳥畏(鶉入物)
- 第十八(放鷹十三)山緒 兎山緒
- 第十九(放鷹十四)鷹禮法
- 第二十(放鷹十五)調養 養雞鷹法 夏養鷹法 鳥屋(放鳥屋、蒸鳥屋) 養荒鷹法
- 第二十一(放鷹十六)餌作りやう
- 第二十二(放鷹十七)餌かひやう
- 第二十三(放鷹十八)犬 犬目利 犬仕込様 聲 發の事 犬と膳をすゆる様 犬飼の詞 犬飼裝束

- 瑠氏藏古今要覽稿未調進本目錄
- 時令部 いきみたま 一冊
- 地理部 富士山 同詩歌 二冊
- 比叡山 二冊
- よしの山 二冊
- 濱名の橋 一冊
- 山崎橋 一冊
- 居處部 くつかた 一冊
- 草木部 綿 櫛 二冊
- 禽獸部 狸々 一冊
- 蟲介部 河童 一冊
- 羽蟲部 鳳蝶 蝶 二冊

古今圖書集成
目錄
和
自
刊
刊
書
屋



明治十三年十二月二十二日出版御届
同十四年一月出版

著述人故 屋代弘賢
住所不詳
用印人 青香山景雄
京橋區西紺屋町九番地

明治十三年十二月二十二日出版御届
同十四年一月出版

皇朝通志卷之四十四

四十四卷一頁
四十四卷二頁
四十四卷三頁
四十四卷四頁
四十四卷五頁
四十四卷六頁
四十四卷七頁
四十四卷八頁
四十四卷九頁
四十四卷十頁

皇朝通志卷之四十四
四十四卷一頁
四十四卷二頁
四十四卷三頁
四十四卷四頁
四十四卷五頁
四十四卷六頁
四十四卷七頁
四十四卷八頁
四十四卷九頁
四十四卷十頁

